

第5章

避難するときの注意

警戒レベル4で全員避難

どのくらい危険な災害で、そのときにどんな避難行動をとればいいのかを5段階の警戒レベルであらわしています。住んでいるところに、警戒レベルが出されたら注意が必要です。

避難情報等

警戒レベル

避難行動等

避難情報等

防災気象情報

集中豪雨 台風 土砂災害

警戒レベル
5

災害発生中

すでに災害が発生している状況です。命を守るための行動をとりましょう。



災害発生
情報等

(災害が発生したことがわかったとき)

(市町村が発令)

・大雨特別警報

・氾濫発生情報

警戒レベル
4

全員避難

すぐに避難先へ避難しましょう。避難場所までの移動が危険な場合は、近くの安全な場所や、家の中のより安全な場所に避難しましょう。



避難勧告
避難指示
(緊急)

(早めの避難をよびかけるものが避難勧告で、より危険がせままっているときに避難指示が出ます)

(市町村が発令)

・氾濫危険情報

・土砂災害
警戒情報

警戒レベル
3

高齢者などは
避難

避難に時間のかかる人(高齢者・小さな子ども等)はつきそいの人と避難しましょう。その他の人は、避難の準備をしましょう。



避難準備・
高齢者等
避難開始

(市町村が発令)

・大雨警報

・洪水警報
・氾濫警戒情報

警戒レベル
2

ハザードマップを見て、どのように避難するか、確認しましょう。



注意報

(気象庁が発表)

・大雨注意報

・洪水注意報

警戒レベル
1

数日分の食べ物や水や避難グッズを準備し、災害にそなえましょう。



早期
注意情報

(気象庁が発表)

・早期注意情報

避難をするときの注意点

避難をするときにけがをしたり、命を落としたりしないように注意しましょう。

●住んでいる地域ちいほに、警戒レベル3や警戒レベル4が出たときには、すぐに避難しましょう。また、雨が弱いうちに避難しましょう。



●動きやすい服うごで避難しましょう。

●**もちもの**:必要なものだけをリュックなどに入れてもっていきましょう。いざというときに危険を知らせるため、ホイッスルなどをもっておきましょう。



●**雨具**:傘かさは使用せず、レインコートなどを着ましょう。

●**くつ**:はきなれたくつをはきましょう。長くつは水が入ると動きにくくなるのでさげましょう。

●**ヘルメット**:頭をまもるためにヘルメットなどをかぶりましょう。

●なるべく大人と一緒いっしょに、はなれないようにしながら避難しましょう。



●車や自転車を使わずに避難しましょう。



●川やため池、海岸などには近づかないようにしましょう。また、水は低い所へいきおいよく流れこむので注意しましょう。



●まわりまわりにいる一人ぐらしのお年よりや低学年の子などに声をかけながら避難しましょう。



●水がひざ以上の高さのときの避難は危険です。無理をせずきゆうじょに安全な場所で救助を待ちましょう。流れがあるときは水がひざより低くても危険です。



●夜に避難するのは危険なすいちよくので、垂直避難などで身の安全をまもりましょう。



ハザードマップを見てみよう

ハザードマップは、災害が起きる危険な場所や避難所などが記された地図です。土砂災害・洪水・浸水など、それぞれの災害がどの場所で起きる可能性があるのかという情報を知ることができます。

ハザードマップを見ながら、家族ともしものときにどう避難をするか話し合ってみましょう。

ハザードマップの見方

ハザードマップは、災害の起こりやすい場所がわかりやすいように色分けされています。避難するときに危険な場所を通らないよう、学校や自宅から避難場所までの道を確認しておきましょう。



直方市のハザードマップ

土砂災害

土砂災害警戒区域 (イエローゾーン)

土砂災害が発生したときに、土や石、木などがおし流される可能性があり、逃げないと危ない場所です。

土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン)

土砂災害警戒区域 (イエローゾーン) の中でも特に危ない場所。家を壊してしまうほどの力で、土や石、木などがおし流されると考えられている場所です。



直方市のハザードマップ

浸水

浸水した場合に想定される水深

- 5.0m以上
- 3.0m～5.0m未満
- 0.5m～3.0m未満
- 0.5m未満



垂直避難について

安全な場所へ避難する時間がない場合、建物の上の階へ避難することを垂直避難といいます。垂直避難をする場合は、建物のより高い場所へ移動しましょう。土砂災害の危険がある場合は、より高い階で山から離れた部屋へ避難しましょう。

水害の場合



土砂災害の場合

